

人間が危ない

核のはなし

服部 学 著

人間が危ない

核のはなし

服部 学 著

水曜社

著者

服 部 学 (はっとりまなぶ)

1926年 仙台市に生まれる

1947年 東京大学理学部物理学科卒業

現 在 立教大学助教授

所属学会 日本平和学会, 日本原子力学会, 日本物理学会

著 書 「原子力潜水艦」

「安保条約と核問題」

「原子力と安全性」(共著)

「核廃絶か破滅か」(共著)

「核兵器の脅威を語る」(共著)

「核時代と世界平和」(共著)

訳 書 R. C. オルドリッジ「核先制攻撃症候群」

R. W. リード「戦争と科学者」

S. グラストン「原子力ハンドブック」基礎篇,

原子炉篇, 爆弾篇(共訳)

核問題とのかかわり

1945年, 長崎原爆による土壤中の放射能の分析に協力して以来, 核兵器の問題に強い関心を持ってきた。

第2回原水爆禁止世界大会以来, 原水爆禁止運動に参加。

1975年, 被爆30年広島国際フォーラム事務局長。

1977年, NGO被爆問題国際シンポジウム事務局代表。

1980年, 1981年, 原水爆禁止世界大会準備委員会代表委員。

人間が危ない——「核」のはなし 定価 880円

1982年2月25日 初版発行

1982年3月25日 2刷発行

著 者 服 部 学

発 行 者 藤 原 弘

発 行 所 株式 水 曜 社
会社

東京都文京区後楽2-1-18 第3土屋ビル

電話 03-813-7960

振替東京 1-83951

印 刷 アール企画印刷

日本音楽著作権協会(出)許諾第 8113423 号

装丁: 天造直子 楽譜: 音楽センター 0031-082300-3738

目次

1	ミッドウェー入港	1
2	母と子の原爆展	15
3	原子爆弾の話	35
4	第五福竜丸	56
5	核戦争の脅威	74
6	日本と核兵器	94
7	原子炉見学	112

8	原水爆禁止世界大会	134
---	-----------	-----

9	レーガン戦略計画と中性子爆弾	152
---	----------------	-----

	あとがき	163
--	------	-----

1 ミッドウエー入港

平野友和くんは、神奈川県横須賀市に住んでいます。一九八一年（昭和五十六年）四月、浦賀中学に入學した一年生です。

東京の雑誌社につとめて編集の仕事をしているお父さんからは、「中学生になったんだから、新聞ぐらいは毎日読むようにしろ」と言われます。でも友和くんは新聞はあまり好きではありません。見るのはテレビの番組の出ているところだけです。活字ばかりぎっしりと並んでいる新聞よりは、少年ジャンプのアラレちゃんの漫画を見る方が面白いし、テレビならいくら見てもあきません。

お母さんの誕生日は一九四五年（昭和二〇年）八月一六日です。つまり第二次世界大戦の終わった次の日に生まれたのだそうです。だから「私より若い人はみんな戦争を知らないし、原子爆弾を知らない世代なのよ」とよく言います。今では戦後に生まれた人の方が、日本の人口の半分よりもずっと多くなっているのだそうです。

お父さんは一九三八年（昭和一三年）の生まれですが、小さかったのでやはり戦争のことは何も知らないそうです。それでも子どものころは戦後で食べ物がなく、ひもじい思いをしたことは覚えてい

るそうです。

両親が戦争を知らないのだから、友和くんもテレビで見る以外に戦争の話なんか聞いたことはありません。学校から坂を降りたところに住友重機の造船所があります。昔は浦賀ドックといって、軍艦をたくさんつくっていたそうです。このごろもときどき自衛隊の軍艦をつくったり修理したりしていますが、それほどカッコイイとも思いません。

この間、家でこんなことがありました。

「お父さん、チョーヒーセーってなに？」

「お前たちがみんな兵隊にされて戦争につれて行かれるんだ。そうになったらどうする」

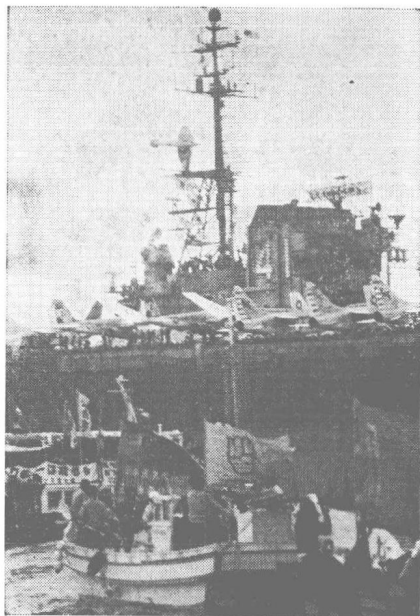
「逃げるさ」

「そんなことできないのが徴兵制なんだぞ」

それ以来友和くんは戦争のことが少しずつ気になってきました。新聞やテレビのニュースも少し気をつけて見るようにしました。たしかにこのごろ、戦争に関する話が多くなってきたようです。

四月九日に鹿児島県の沖で、アメリカの原子力潜水艦ジョージ・ワシントン号というのが、日本の貨物船日昇丸を沈めておいて逃げてしまいました。

それからこれは戦争とどういう関係があるのかよくわからないけれど、日本原子力発電会社の敦賀発電所というところで、放射能が外に洩れ出した事故が何度もあり、これを隠していたのが見つかってしまったという事件も、連日の新聞やテレビで大きくとり上げられました。



入港したミッドウエーと抗議する人びと

五月になると、日本の総理大臣がアメリカに行って、軍事面でも協力を強めるという意味の発言をしてきたことが問題となりました。その後でアメリカは、日本の防衛費をもっとふやすように要求してきたとニュースで言っていました。日本は憲法で戦力を持たないことになっていると教わったのに防衛費をふやしたりして良いのだろうかと友和君は思いました。

日本海では日本とアメリカの艦隊が合同で演習をして、たくさん漁船のはえなわをずたずたに切るといふ事件もおこりました。

そこにまた、むかし日本に来ていたアメリカ大使のライシャワーさんという人や、前にアメリカの国防省につとめていたエルズバーグさんという人が、日本にも核兵器を持ち込んでいたと発言したことが大きな問題となりました。友和くんも「カクヘイキ」って何だろう、どこに置いてあるのだろうと気になってきました。お父さんに聞いたら「原子爆弾や水素爆弾のことだ」と教えてくれました。それならば「はだしのゲン」の映画で前

に見たことがあります。

五月二〇日、めずらしくお父さんが早く家に帰ってきて、一家三人で夕食のテーブルを囲んでいると、テレビのニュースでヨコスカという言葉が聞えてきました。画面を見ると、ミッドウェーというアメリカの航空母艦が大きく出ている、核兵器をつんで近く横須賀に帰ってくると言っていました。ニュースが終わると、このミッドウェーのことが食卓の話題になりました。友和くんが

「ほんとに核兵器をつんでいるの？」

と言うと、お母さんが

「昨日、生協の共同購入で素子さんのお母さんにお会いしたとき、こんな本をいただいたのよ。きつとこれに書いてあるかもしれないわ」

と言って、『核基地・横須賀』というパンフレットを持ってきました。お母さんの話にはしょっちゅう生協という言葉が出てきます。はじめのうちは「セイキョー」って何のことかわからなかったのですが、生活協同組合の略なんだそうです。そして生協の標語は「よりよい生活と平和をもとめて」というんだそうです。ページをめくっていたお母さんが

「あった、あった。一九七四年(昭和四九年)九月一〇日に、ラロックという退役海軍少将がアメリカの議会で証言したことが書いてあるわ。『わが国の航空母艦は核兵器をつむことができる。核兵器はその他にフリゲート艦、駆逐艦、潜水艦、その他いろいろな艦艇にもつむことができるし、ほとんどの場合につみ込んでいる。これらの軍艦は、日本なりその他の外国の港に入るとき、核兵器を降ろす

ようなことはない。核兵器をつむことのできる軍艦は、大修理のとき以外は、ふつうは核兵器を軍艦につんだままである」と言っているんですって」

「ラロック証言といってね。信頼性の高い証言なんだ」とお父さんが解説します。

「まだあるわ。一九七八年（昭和五三年）二月七日に、クレーター海軍長官がやはり議会で『ミッドウエーは核攻撃用の航空機の母艦の役割を果たしてきた』と説明しているそうよ」

「ミッドウエーだけではない。横須賀を母港にしている第七艦隊の他の軍艦もつんでいると考えな

第二章 戦争の放棄

〔戦争の放棄・戦力の不保持・交戦権の否認〕

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

ければならない。それから時どき横須賀にもやってくる原子力潜水艦に、サブロックという核兵器がつまれていることは、かなり前からアメリカの海軍省が発表している」

「サブロックってなに？」

「相手の原子力潜水艦を攻撃するためのロケット式の核爆雷なんだ」

「横須賀だけじゃなくて、岩国にも核兵器が持ち込まれていたってニュースで言っていたわね」

「ライシャワーさんやエルズバークさんが、今から二〇年も前、一九六〇年代に広島県の岩国に

水素爆弾をつんだ船を停泊させておいて、いつでも使えるようにしていたと言っている。今も岩国にはMWWU・1という核兵器の管理を専門とする部隊がいることが、この間日本の議会でも問題になった」

お父さんはこう言うと言をくんでむつかしい顔になりました。雑誌の編集をやっているだけあって、お父さんはいろんなことをよく覚えています。でも友和くんには核兵器ってどうしてそんなに恐ろしいのか、まだよくわかりませんでした。

五月三〇日の午後、労働福祉会館で「第三回いま平和を考える横須賀市民のつどい」というのが開かれました。お母さんが「横須賀で核兵器の監視をした映画もあるのよ」と言ったので、ついに行ってみました。

最初は青山学院大学的小林孝輔先生の憲法についての講演でした。少しむつかしかったけれど、

「いまの日本の憲法は国民が太平洋戦争で大きな犠牲を払って得られたものであること」

「この憲法はアメリカに押しつけられたものだといって憲法改正をしようとしている人たちが、いまアメリカの日本に対する防衛力増強の押しつけを受け入れようとしていること」

「核戦争をなくそうとして努力することこそが、憲法の精神を守ることになるのだということ」などはよくわかりました。

講演の後で「横須賀と核兵器」という報告がありました。報告の内容は

「核兵器がふたび使われる核戦争の危険が日ましに大きくなっている。核戦争は全世界的な規模で行なわれることになりそうである」

「したがって核戦争の準備は全世界にわたって進められている」

「横須賀を母港としているアメリカの第七艦隊も、その全世界的な戦略の中で行動をしている」

「つまり横須賀は核戦争のための重要な核基地となっている」

参加者の間からは

「核基地は全市民の生命にかかわることだ」

「ミッドウエーの母港を認めておくことは、核戦争の準備を手伝うことになり、平和憲法に反するのではないか」

「核兵器を認めるような首相はやめさせるべきだ」

等々、たくさんさんの質問や意見が次々と出されました。司会をしていた人が

「今日の熱心な討論は、横須賀市民の核兵器への不安、関心の高まりを示すものにほかなりません。私たちの運動を少しでも広げて行くことが、平和憲法を守ることになるのです」

としめくり、全員でミッドウエー入港反対の決議をしました。

最後に「われわれは監視する」という映画が上映されました。これは横須賀に住む厚木たかさんら「映画で横須賀を記録する会」の人たちが、七年前に、横須賀基地を見通せる場所にカメラを据え



アスロック運搬用のコンテナ（提供：神奈川平和委員会）

て、浦郷や吾妻島の弾薬庫地域の監視を続けたときの記録の映画でした。入港しているアメリカの軍艦から、きびしい警戒の中を運搬船で運びこまれたり積み出されたりする何種類かのコンテナという特殊な容器がはっきりと写されていました。

後からの説明によると、当時は核兵器を運搬するコンテナではないかと推定していたけれども、はっきりした証拠がつかめなかったのだそうです。ところが最近、アメリカの国防省で出している『核兵器運搬手引き』というのが手に入ったので説明図とてらし合わせてみたところ、写真のうちのいくつか、核魚雷のアスロックおよび核ロケットのウォール・アイの運搬用コンテナと一致することがわかったということでした。

ミッドウエーが横須賀に戻ってくるという前日、六月四日の夕方、友和くんは参考書を買いに出かけ

ました。京浜急行の横須賀中央駅で電車を降りると、駅前を大ぜいのデモ行進が通っていました。

「ミッドウエーは横須賀にくるな」

「核兵器持ち込みハンターイ」

と皆が叫んでいました。しばらく見ていると三浦半島教職員組合の旗がきて、先生たちもデモ行進に参加していました。清水先生や浜田先生など、浦中の先生たちの顔も見えました。清水先生がこちらを向いたので友和くんは手をふりました。先生もにやりと笑って手を上げました。

参考書を買って戻ってくると、さっきはデモの人ごみで気がつかなかったのですが、駅前広場にテントがはってあり、ミッドウエー入港に「反対する「母と子の座り込み」が行なわれていました。核兵器持ち込み反対の署名運動もやっていました。その脇に、横須賀で水爆が爆発したらどのくらいの範囲まで被害が及ぶのかということをかいた三浦半島の地図がありました。国電の横須賀駅の上空二〇〇メートルのところで、一メガトンの水素爆弾が爆発したときのことを計算したものだという説明がついていました。一メガトンというのは、水素爆弾の爆発の威力をあらわしたもので、火薬の一〇〇万トンの爆発に相当するのだそうです。

のぞきこんでみてびっくりしました。横須賀を中心にしていくつかの円がかいてあります。半径七キロメートルの円内の人は、爆風で全員が死んでしまい、半径一八キロメートルの円内は、木造の家が全部燃え上って火の海になってしまうということです。

友和くんの家のある浦賀はどの辺かなと思って探してみると、爆風で人が死ぬ半径七キロメートル

の円のちょっと外側でした。でも火の海になるという半径一八キロメートルの円の方には、三浦半島は全部、西の方は鎌倉から藤沢、北の方は横浜の桜木町駅のあたりまで入っていました。

隣にもう一枚、「死の灰」と呼ばれる放射能の被害がどこまで広がるかを示した地図がありました。秒速三メートル南南西の風が吹いていると、「死の灰」が風に乗って流されていき、横浜、川崎、東京の二三区、さらに松戸のあたりまで、横須賀から約六〇キロメートル、幅三〇キロメートルの風下の地域は、屋外で何も防護物がないと、ほとんどの人が何日かのうちに放射能で死んでしまうということです。もう一つ大きな楕円形がかいてあり、土浦や筑波山のあたりまで、幅四〇キロメートル、長さ一〇〇キロメートルの範囲では、二人に一人が死んでしまうと書いてありました。

脇から地図をのぞきこんでいたおばさんが

「ミッドウエーの核兵器が爆発したらこんなことになるのかね」

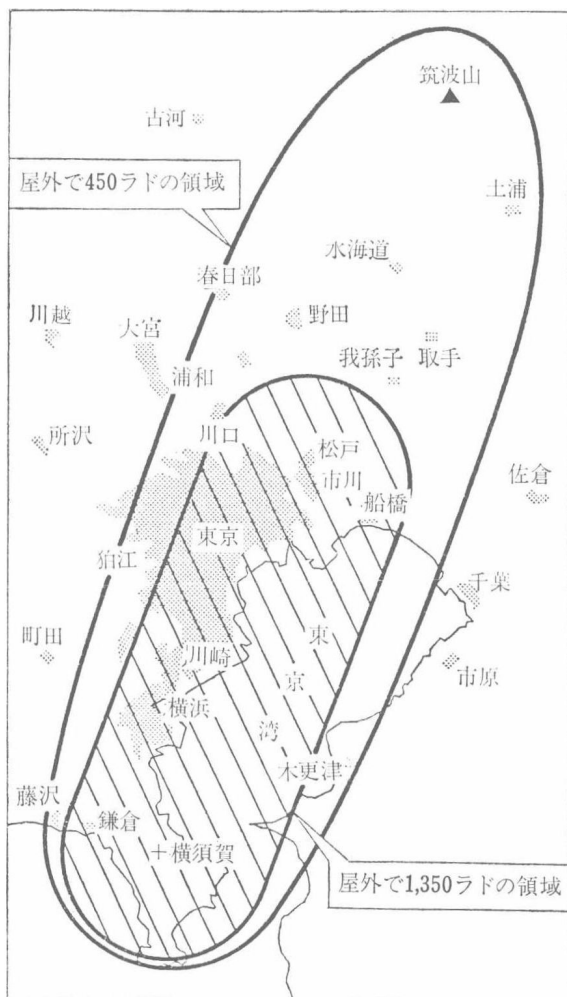
と質問しました。男の人が

「ミッドウエーは七〇発ぐらい核兵器をつんでいると思われます。大部分はこれよりもずっと威力の小さいものでしょうが、少数はこのくらいの威力の水爆もつんでいるかもしれない」

と答えました。このあいだ「いま平和を考える横須賀市民の集い」で「横須賀と核兵器」という報告をした人でした。

「それで、やっぱり事故がおこったりするのかな」

「事故はめったなことではおこらないと思います。でも予想しないことがおこるのが事故なので、何



死の灰によってこんなに多くの人が……（南南西の風，秒速3メートルと仮定した場合の「死の灰」の降下地域。450 ラドは，半数の人間が死ぬと予想される被爆量。「汚い」水爆，あるいは地表近くで爆発した場合は，さらに範囲は拡大される。朝日ジャーナル '81年6月26日号より。